

宇管工

宇工高へ資材提供

次世代育成に支援継続

宇都宮市管工事業協同組合（中村理事長）は

14日、県立宇都宮工業高校（菅野光広校長）に教材用の配管材料（81万円相当）を寄贈した。この活動は毎年実施しており、今回が11回目となる。提供した資材は、環境設備科の生徒が受験する配管技能士試験の実技科目である建築配管作業の練習に使われる。

寄贈した資材は、鋼管や銅管、塩ビ管、接着剤など。資材価格高騰の影響を大きく受けているが、これまでと同様、学校の要望に応じて必要量を提供した。

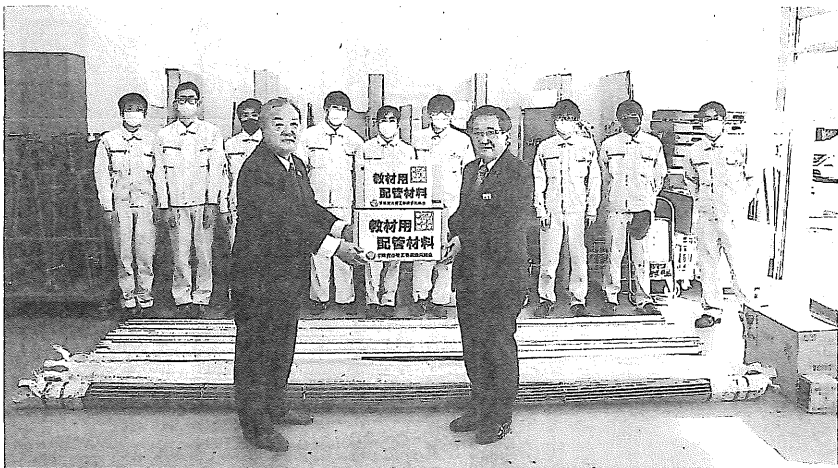
中村理事長は生徒たちに「今のうちから資格を取っておくことは、大変素晴らしいことだ。組合としても応援する」と伝え、菅野校長は「これまで先輩たちは、提供された資材で練習して成果をあげている。大切に使用して、腕を磨いてほしい」と話した。

生徒を代表して2年生の手塚咲吏さんは「大切に使う」と礼を述べ、「絶対合格するよう頑張る」と決意した。

同校環境設備科の生徒は、2級に5人、3級に15人が受験を予定している。同科の福田和寛教諭は「練習しないと試験には受からない。提供いただいたこと、たくさん練習できるように感謝した。」

贈呈後の懇談で中村理事長が「設備業を通じて世の中に奉仕したいと思

っているが、そのために若手の人材確保が必要だ。設備業は一般にはなじみが薄い」と話し、菅野校長は「設備業はなくてはならない業種だ。若年層への周知のため、貴組合と宇都宮工業高校が一体となって、小中学生に向けたPR活動などをしていきたい」とさらなる連携を呼びかけた。



中村理事長（左）から菅野校長に渡された